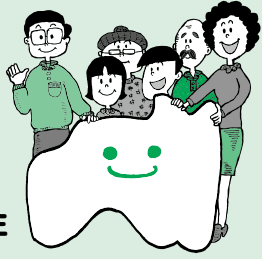


きらり健康生活協同組合



2026年

9月号

いのちの炎

〒960-8055 福島市野田町1丁目15番12号
TEL 024-531-6262 FAX 024-531-6333
URL <https://www.kirari-hcoop.com/>
e-mail seikyou@kirari-hcoop.com

●発行人／専務理事 橋本一弘
●編集人／「いのちの炎」編集委員会



(スマートフォン専用)



生協の現況

2026年7月31日現在

★組合員数………20,005名
★出資総額………609,463,000円
★一人平均出資額………30,465円

子どもたちとつくる、夏の特別な1日

毎月20日開催のにじいろマルシェ。この日はいつも以上にぎやか。夏休みに入った子どもたちが店員さんになって、笑顔でみなさんをおもてなし。子どもたちの元気な「いかがですか〜？」の声に、思わずあれこれ買ってしまう大人たち…。そんな微笑ましい場面がたくさん見ることができました。

店員さんを終えて、ご褒美にパフェづくりを教えてもらいました。管理栄養士の先生の指導のもと（…あれ？絞って乗せるだけ？）とても簡単にできました。とてもおいしかった。

あら！美味しそう
いくらかしら？

いかがですかあ〜



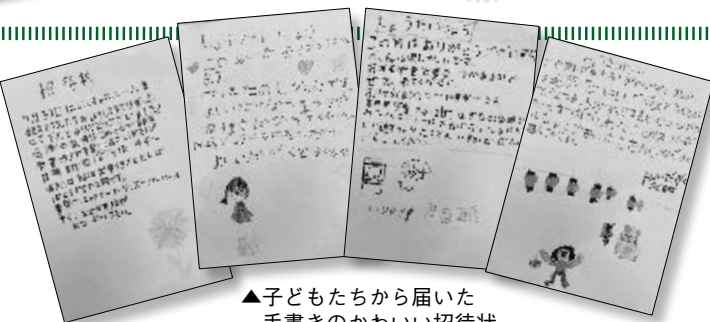
いらっしゃ〜い

いらっしゃ〜い！

店員さんのあとに、
パフェづくりを教え
てもらって美味しく
食べました

楽しく交流したポッチャ大会のあと、学童の子どもたちからかわいい夏まつりの招待状が届きました。

ポッチャ大会に参加したみんなでワクワクしながら参加させていただきました。わなげや魚つり、おばけやしきに宝探し…子どもたちが工夫を凝らして作った15のブースで楽しくおもてなしをしていただきました。ジュースやお菓子、ポップコーンなどのおみやげもいただき、とてもうれしい時間でした。

▲子どもたちから届いた
手書きのかわいい招待状◀お部屋にいくつか
のブースが作られて、
それぞれ楽しい
コーナーでした夏祭りにつきも
のかわいい浴
衣姿もポッチャで子どもたちと
交流しました

吉井田支部では、昨年続き近くにある学童クラブに通う子どもたちとポッチャ大会を実施しました。

昨年は子どもたちが新聞紙でポッチャの玉を自作して練習を積んでこれたという情報もあり、それではと、今年は練習ができるように事前にポッチャの玉をお貸しして当日に臨んでいただきました。

7月30日、学童さん9チーム、支部から5チームの計14チームが2つのグループに分かれ、総当たり戦を行い、勝率の上位3チームずつの計6チームで決勝トーナメントを行いました。学童クラブのみんなは会場に1列に並んで入ってきて、担当のおじちゃんのルール説明を静かに聞いてくれました。でも試合が始まると一転、「がんばれ〜！」「もうちょっとこっち!!」「もう！だから言ったのに」「やったあ〜」など応援やら励ましやら広い会場も大きな声でいっぱい。良い玉が投げられると「スゲー！」大人がうまい玉を投げると「おとなげな〜い！」などいろんな歓声に包まれます。

結果は大人チームが優勝、準優勝、学童クラブチームが3位という結果で、中には順位に不満なのかブスとした表情の子もいたりしましたが、みんな楽しい時間を過ごすことが出来ました。最後に小さな袋に、お菓子と、支部のみんなが作った折り紙などを入れてプレゼントしました。

帰り際には「楽しかった」「近くだからまたくるね！」と笑顔でお別れとなりました。

はい、一列に並んで。
ごあいさつですよ！やっぱり
積み上げたく
なるよねえほら〜
頑張らなくちゃ！緊張の一瞬！あそこ
玉が来れば勝てるぞ！?うお〜奇跡だ！
いっぱいこつ付いた

この間も、地震だけじゃなく台風やゲリラ豪雨による水害、記録的な暑さ、雪害など、いろいろな形で自然災害が私たちの生活を脅かしてきました。いっどんな災害が起きるかは誰にもわからないからこそ、日頃から備蓄をしたり避難経路を確認したり、できる準備はしておくことが大事だと感じます。

そして、普段からご近所さんや友人・知人とのつながりを大切にしておくこともすごく重要だと思います。いざという時に助け合える「地域の力」は、日常的ちよっとした声かけや関係づくりから生まれるものだから。お互いさまの気持ちで、本当に心強いです。



二〇二六年
七月二十八日
十六時二十七
分、熊本県熊
本地方を震源
とする大きな
地震が発生し、
深刻な被害が出ています。
ニュースを見た瞬間、東日本大震災の記憶が一気によみがえり、自然の力の前では人間って本当に無力なんだと改めて感じました。十年前にも熊本地震があったことを思うと、県民のみなさんが抱えているであろう不安や疲れ、やりきれない思いを想像して胸がぎゅっとなります。

私が「きらり健康生活協同組合」に夢中になる理由

理事 作業療法士
平野 聖子

第9回

研修最終日。これまでの学びを振り返り、行動計画を立てて発表し合い、意見交換を行った。

出された意見や活動計画案には、次のようなものがあつた。

- ・班会のメニューを冊子化し、健康フェスタなどで配布して活動を広める
- ・専門職によるメディカルフットケアなどを通じて、組合員と職員の出会いの場をつくる
- ・声かけの基本をまとめた「お誘いシート」を作成し、活動に活用してもらう
- ・強化月間の勢いを一年の締めくくりにつなげるため、「締めくくり月間」を設けて全体で振り返る
- ・町内会のイベントと事業所の祭りを合わせた合同企画を実施する
- ・イベントを通して防災にも触れてもらえるような内容を盛り込む
- ・組合員加入後のお礼訪問や、高額出資者へのあいさつ訪問を取り入れる
- ・など、次々と飛び交うアイデアは、どれも地域を思う純粹な願いから生まれており、その根底には「自分たちの医療生協が好きだ」という気持ちがあつた。
- ・他法人には真似できない強みを活かし、地域に必要な存在であり続けたい

いこの思いを一層強くした。前期・後期合わせて四日間の南医療生協「組合員活動実践コース研修」は、忘れられない充実した時間だった。

研修の帰り道、これまでの出来事が走馬灯のように脳裏を駆け巡り、この胸の高鳴りは、きつと次の挑戦への合図だと確信した。

気づけば私は、地域と仲間を思う気持ちに背中を押され、地域のためにまた新たな一歩を踏み出したいと願っていた。

医療生協の魅力は、地域とつながり、地域を考え、自分も地域住民の一人として「こんな活動があつたらいいな」を形にできるところにある。それが、私が「きらり健康生活協同組合」に夢中になる理由だ。そしてその理由は、これからも私を前へ進ませる原動力になるだろう…。

【おわりに】

私が医療生協や協同組合の魅力をこんなに熱く語ることができたのは、南医療生協さんの研修に参加し、自分の立場に置き換えて深く考える機会をいただけたからだと思います。文章として思いを発信することには賛否が

あることも承知しておりましたが、「いつも楽しみに読んでいるよ」「一緒に頑張ろうね」と声をかけてくださる組合員の皆さんに励まされ、ここまで続けることができました。本当にありがとうございました。

ここまで読んでくださった方の中には「今回で最終回なのかな」と思われた方もいらっしゃるかもしれませんが、実は今年「まちづくり政策コース」への参加が決まりました。

三学期制の研修で、南医療生協の各事業所を見学し交流する中で、自法人の課題を整理し、行動計画を作成することが目的となっています。今年は実践へ踏み出す、大切な一年になるのではとひしひしと感じております。

研修報告や、少し旅の話も交えながら、またこの場で皆さんとお会いできる日を楽しみにしております。それまでの間、皆さんにとって日々の活動が実りあるものになりますように…。



こどもたちとのつながりを作る きらりファミリアクラブ

昨年から「子どもとその保護者」向けの活動を広げるために、きらりファミリアクラブを立ち上げました。子育てサロンや運動教室・各種健康づくりの教室など、様々な活動を通して、たくさんのお子さんとそのご家族と交流させていただいています。

また最近では、子育て支援センターや学童などとのつながりを持つことができ、専門職が出向いて出張教室を開催してきました。

子どものうちからの健康づくりは大切です。今後も、楽しい活動を行いながら、たくさんの子どもたちの笑顔と出会いたいと考えています。



▲三河台六華学童クラブでの運動教室



▲リトミック体験教室

▼とやの子育て支援センター歯みがき講座



▲とやの子育て支援センター骨盤体操教室



▲三河台学童「みんなの家」夏休みわくわくDAY



▲子育てサロンとやのんクラブ



▶大笹生学童食育教室



▲大笹生学童運動教室



▲運動遊び教室
きらりん☆アクティブキッズ

A black and white photograph of a motorcycle campsite in a wooded area. Two motorcycles are parked on the left, and a tent and a tarp are set up on the right.

と合流し、北海道で一週間遊んだ私の最長二週間の旅の前段部分でした。

鈴木さんの
北海道温泉日記
〈番外編〉



リレー・フォー・ライフ福島

「遠方開催となった1度を除き毎回参加してきた結果から。また来年もと励みになります！」と来年の参加に向けてもう準備万端の様子でした。



班会あれこれ

毎週土曜日	森 合 支 部	体操広場班	セラバンド体操など
毎週木曜日	森 合 支 部	カラオケ班	カラオケを楽しむ
毎週月曜日	笹 谷 支 部	よりあい体操班	セラバンド体操など

子育て応援 公開講座

『ほめて伸ばす令和の子育て』開催します

こどもの自己肯定感を育みながら、親も笑顔で過ごせるヒントがきっと見つかります。

参加費 **無料**（定員になり次第締め切りとさせていただきます）

公立学校法人福島県立医科大学
保健科学部作業療法学科学科長 教授 作業療法士
30年以上にわたり特別支援教育に外部専門家として参画している。
夢は学校作業療法士の制度化。
受賞歴：日本作業療法学会最優秀演題賞（2021年）、
日本作業療法士協会奨励賞（2022年）、
日本LD学会研究奨励賞（2024年）

☎526-1515
地域保健部（担当：大越）

*お申込みは上記電話番号か、
二次元コードからお願いします



がん検診の基本 「肺がん検診」



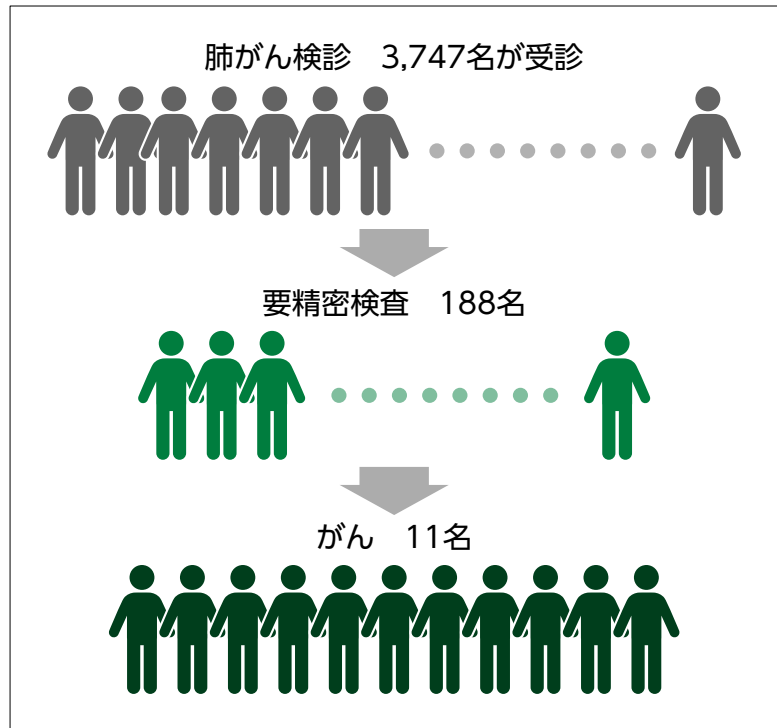
肺がんのリスク

喫煙は肺がんの危険因子のひとつです。喫煙者は非喫煙者と比べて男性では四・四倍、女性では二・八倍肺がんになりやすいと言われています。喫煙の機会が多いほどリスクは高くなります。自分自身が吸っていないなくても周囲に流れるたばこの煙を吸うことも危険性を高めます。加熱式たばこについては、従来のたばこに比べると健康被害が少なくと宣伝されていますが、発がん物質などの有害物質が含まれているため健康への悪影響は否定できません。



肺がん検診

四十歳以上の方は年に一度胸部X線検査を受けることがすすめられています。



2025年度きらり健康生活協同組合で肺がん検診を受けた方のデータ



今年度より、福島市については喀痰検診が廃止となりました。喀痰検診の標的となる肺門部扁平上皮がんは減少していることによるものだと思われますが、喫煙者の肺がんのリスクは変わっていません。協会けんぽ健診では今年度より喀痰検診が追加となっていますので、自分に必要な検診を受診し、早期発見を目指しましょう。

昨年二〇二五年度福島市肺がん検診の受診者（きらり生協内）は三千七百四十七名でした。そのうち、「要精密検査」と判定されたのは百八十八名でした。精密検査を受診したのが百六十六名で、そのうち十一名の方に肺がんが見つかりました。肺がんは日本人のがんによる死亡率のトップとなっています。しかし、症状が出る前に検診で発見し、早期のうちに治療すれば多くが治るようになります。ご家族、友人、近所の仲間、みんなで誘い合い、検診を受けに行きましょう。

二〇二五年度きらり健康生活協同組合での福島市肺がん検診の結果

令和8年熊本地震 支援募金の 取り組みについて

7月28日熊本県で発生した地震による深刻な被害への支援に向けて、支援募金に取り組めます。

期間 2026年7月より9月30日(水)
締切は状況によって変更になる場合があります。

取り組み内容 きらり健康生協各事業所窓口
に募金箱を設置します。また、生協各活動時においても募金袋を持参しますのでご協力願います。

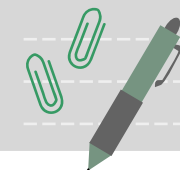
集約した募金については、日本医療福祉生活協同組合連合会を通じ、被災者への義援金及び被災地支援活動に取り組む団体への支援金または現地への支援活動等に活用いたします。

この募金は所得税の寄付金控除の対象にはなりませんのでご了承ください。

日本医療福祉生活協同組合連合会 生協基礎研修会

(北海道・東北ブロック会場)

7/31



医療福祉生協の理念や協同組合の大切さを学ぶ研修に、入協1～4年目の職員5名が参加。地域組合員さんや先輩、他生協の職員との交流を通じて、仲間の思いに触れながら、生協活動の魅力を再発見する機会となりました。

組合員活動の先輩として参加の藤岡さん（中央）からのコメント

比べてはいけませんが、個々人の提出資料などを見せてもらい、きらりからの参加者の真摯な研修姿勢とポテンシャルの高さを実感し誇らしい思いでした。フレッシュな皆さんとの触れ合いにエネルギーをもらい感謝です。



被ばく健康相談の お知らせ

専門の先生をお呼びして、被ばくに関する健康相談を実施しています。
毎日の生活に不安を抱えている方、ぜひ、お申込みください。

振津かつみ 先生

兵庫県西宮市在住
兵庫医科大学遺伝学教室非常勤講師(放射線基礎医学)

日時

※日程は調整致します。

ところ

本部健康の家2階
(野田町1丁目15-12)

料金

無料

申込先

☎531-6262